

1. 略歴

- 1982年3月 東京大学文学部第三類フランス語フランス文学専修課程卒業
1984年4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学（仏語仏文学）
1987年4月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程進学
1988年10月 パリ第12大学博士課程（～1991年9月）（フランス文学、フランス政府給費留学生）
1992年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程退学
1992年4月 東京大学文学部助手
1994年4月 白百合女子大学文学部専任講師（フランス文学）
1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（フランス語フランス文学）
2010年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（フランス語フランス文学）

2. 主な研究活動

a 専門分野

フランス近代文学。

b 研究課題

- (1) ポール・ヴァレリー研究。「夢」というトポス、断章という形式からの検討。
- (2) クレオール文学研究。エキゾティシズムとは無縁の、活力にあふれたその作品美学の研究を、シャモワゾー、コンフィアン、グリッサンなどの作品読解を通して進めている。
- (3) 20世紀フランス文学における散文の研究。小説全盛の19世紀とは異なり、20世紀には、詩的強度を備えたさまざまな散文作品が書かれるようになった。とりわけ、時間意識、さらにイメージの活用法という視点から、その特質の一端を捉えようと試みている。

c 概要と自己評価

(1)については、長年の課題として研究を続けている。「夢」というテーマをめぐってヴァレリーとブルーストを比較検討した。またヴァレリーが写真とどのように関わったかを論じ、その視点を発展させて、20世紀後半のオートフィクションと呼ばれる一群の作品における写真の使い方を考察した。さらに、石川淳がどのようにヴァレリーを受容したか、またヴァレリーの初期作品がどのように日本で翻訳されたか等を論じ、ヴァレリーと日本文学との関わりに関する研究を始めている。

(2)については、グリッサンの大著『カリブ海のディスクール』を共訳で翻訳し、現在校正中である。クレオール文学で得られる視点を、どのようにフランス文学全体に関係させることができるかを検討中である。

(3)については、〈声〉という視点から、20世紀フランス文学における散文についてどのような視点を構築できるか、共同研究のプロジェクトを進めた。現在論文集が印刷中であり、その成果を近々問う予定である。

d 主要業績

(1) 論文

塚本昌則、「ヴァレリーと石川淳——〈精神〉をめぐって」、『日仏翻訳交流の過去と未来——来るべき文芸共和国に向けて』西永良成・三浦信孝・坂井セシル編、p.59-77、2014.11

塚本昌則、「まどろみの詩学——ブルーストとヴァレリーにおける夢」、『言語文化』明治学院大学言語文化研究所、n.32、p.59-77、2015.30

塚本昌則、「ヴァレリーと写真」、『詩とイメージ——マラルメ以降のテキストとイメージ』マリアンヌ・シモン＝及川編、水声社、2015.6、p.213-226

塚本昌則、「オートフィクションと写真——〈本物〉とは異なる価値観形成に向けて」、『〈生表象〉の近代——自伝・フィクション・学知』森本淳生編、水声社、2015.10、p.409-426

(2) 書評

ダニー・ラフェリエール、『甘い漂流』、『吾輩は日本作家である』、藤原書店、『週刊読書人』、2014.11

トドロフ、『ゴヤ——啓蒙の光の影で』、法政大学出版局、『ふらんす』、2014.12

2014年回顧・外国文学（フランス）、『週刊読書人』、2014.12

ジャン＝ポール・サルトル『家の馬鹿息子4 ギュスターヴ・フローベール論（1821年より1857年まで）』、『週刊読書人』、2015.7.24

2015年回顧・外国文学（フランス）、『週刊読書人』、2015.12.18

(3) 学会発表

国内、塚本昌則、「〈精神〉について——ヴァレリーの翻訳を中心に」、日仏シンポジウム「日仏翻訳交流の過去・現在・未来」(Traductions France / Japon- histoire, actualité, perspectives)、日仏会館、2014.4.20

国内、塚本昌則、「プルーストの夢、ヴァレリーの夢」、「プルーストと20世紀」(明治学院大学主催のシンポジウム)、明治学院大学、2014.5.10

国内、塚本昌則、「声、夢、ブントゥム——ヴァレリーの「内的対話」を通して」、「声と文学——インデックスとイリュージョン：それは誰の声か」(東京大学文学部仏文研究室主催)、東京大学文学部、2014.9.27

国外、Masanori Tsukamoto, « Valéry et le quotidien - une poétique de l'interruption » (ヴァレリーと日常生活——中断の詩学), リヨン高等師範学校主催の研究集会« Arts et quotidien en France et au Japon : approches du contemporain »における発表、2015.9.25

国内、Masanori Tsukamoto, « Barthes et la violence du Neutre » (バルトにおける中性的なものの激しさ), 青山学院大学主催の国際研究集会 « Roland Barthes, l'écriture et la vie »での発表、2015.11.9

国外、Masanori Tsukamoto, « Variations sur un paradoxe de Valéry : les éditions japonaises de "Teste" et de "Léonard" » (ヴァレリーのパラドックスをめぐる変奏——「テスト氏」と「レオナルド」の日本語翻訳をめぐる), Fondation Singer-Polignac (Université Paris-Sorbonne, Université Paris Ouest, Item 共同開催)での国際研究集会« Paul Valéry, 70 ans après » (2015.11.26-27)での発表、2015.11.27

国内、「三島由紀夫と非人間の詩学」、青山学院大学主催の国際研究集会《日常とは何か、西欧の場合、日本の場合》« Approches du quotidien au Japon et en occident »(2015.12.5-6)での発表、2015.12.6

(4) 総説・総合報告

港千尋・塚本昌則、「存在しない写真へのまなざし」、『マルグリット・デュラス——生誕100年 愛と狂気の作家』、p.88-100、2014.9

塚本昌則、「思想の言葉——モンテーニュ再読」、『思想』、2016.2、p.2-6

(5) 翻訳

個人訳、Catherine Clément, "Lévi-Strauss", 塚本昌則、カトリーヌ・クレマン『レヴィ＝ストロース』、白水社 文庫クセジュ、2014.4

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本フランス語フランス文学会員